

# 技術士 1次試験に合格して



**米山 明**  
(よねやま あきら)

## 勤務先

東海物産株式会社

生産技術研究所 生産技術部

〒059-1434 北海道勇払郡安平町早来富岡 254-6

TEL 0145-22-3452 FAX 0145-22-2566

E-mail yoneyama@tokaibsn.co.jp

■ 専門：生物工学部門(生体成分分離・精製技術)

## 1. 自己紹介

高校時代まで東京都八王子で過ごし、漠然とした大自然への憧れと昔からの魚好きが高じ、はるばる北海道に来て水産学部で学生時代を過ごしました。その後、道内の魚介関連の企業に就職しましたが、転職して現在は千歳市の近郊にある調味料メーカーに勤務しております。

現在は鶏、鮭など天然原料から機能性成分を分離精製する技術開発や、それら成分を効率よく製造する生産プロセス開発に携わっています。

## 2. 受験に至るまで

技術士の資格は名前こそ知っていたものの、とてもハードルが高いものと認識していました。(これは今でも変わりません。)業務の中で技術士のコンサルタントをいただく機会が何度とあり、課題解決に向けたアプローチ手法の鋭さ、モノの考え方、知識の豊富さについて感銘をうけておりました。まさに技術屋として目指すべきお手本が身近にいらっしまったという幸運に恵まれ、また上司から技術士へのチャレンジの勧めもあり、受験に至りました。

## 3. 受験体験

技術士一次試験に向けて、まず行ったのは試験全体の傾向把握です。基礎、適性、専門科目それぞれ過去5年分の過去問題集を購入して、はじめはサラッと解いてみて全体把握を行いました。予想していた通り、解答を見ずに解けたのは全体で3割も無かったと思います。試験本番2か月前に勉強を開始し、この時点で試験レベルと己の実力のギャップに焦りを感じたのを覚えています。特に専門科目は私の知らないワード頻出でしたので、勉強の優先順位を専門、基礎、適性の順に設定して取り組みました。

各科目の勉強法について、専門科目はまずは問題文で初めて知るキーワードを、ネットや書籍で原理、仕組み等の知識をノートに蓄え、類題が出るたびにノートの情報量を増やしていきました。

基礎科目は、私にとって6分野の得意不得意がはっきり分かれる科目でした。当科目は偏りなく得点する必要があるので、不得意分野は繰返し出題されるものをピックアップし過去10年分まで遡って類似の過去問題を解きました。

適性科目は、法律の条項などを覚えることがまず必要なので、主に過去問題の解説で習得しました。初めは文言そのものを覚えることに必死でしたが、習得につれ、技術士が果たす役割、在り方について理解を深めることが出来ました。

実際の試験は、終わった時点で基礎、適性科目は大かた解けた感触がありましたが、専門科目は初めて見るワードがいくつもあり、勉強不足を痛感しました。結果、専門科目がギリギリラインで合格できたのですが、技術士として求められる豊富な知識量というのを改めて知った次第です。

## 4. 今後の目標

現在、諸先輩に多大なご支援を頂戴しながら、生物工学部門の二次試験に向けて勉強に取り組んでいます。知識、モノの考え方、課題へのアプローチ方法など未熟な自分には何年越しのチャレンジになるか未知数ですが、技術士として活躍できるよう自己研鑽に努めます。

最後に、技術士試験に向けて様々なアドバイス、ご支援をいただいている社内外の先輩の方々に、そして家族に、改めて感謝いたします。